

令和元年度 第2回徳島県総合教育会議 議事録

日時：令和元年8月31日(水)15:00～16:00

場所：県庁3階 特別会議室

1 開会

(志田部長)

ただ今から、令和元年度 第1回「総合教育会議」を開催いたします。
まずはじめに、飯泉知事よりご挨拶をお願いいたします。

<あいさつ>

(飯泉知事)

本日は総合教育会議を開催致しましたところ、教育委員の皆様には大変お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。前回5月27日には徳島旧大綱の素案をお示しさせて頂きました。今回は皆様方から頂いた様々なご意見を踏まえる形で最終案をご提示させて頂ければと考えておりますので、是非この案につきましても低所高所からご意見やご提案を賜りまして、最終成案がより実りの多いものとなりますようどうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

それでは本日の総合教育会議をよろしくお願ひ致します。

(志田部長)

ありがとうございました。それでは議事に移って参ります。

議事につきましては、飯泉知事に進行をよろしくお願ひいたします。

なお、ご発言の際には、お手元にございますマイクのスイッチを押してご発言をいただきますようよろしくお願ひいたします。

それでは飯泉知事よろしくお願ひいたします。

2 議事

(飯泉知事)

それでは、まず事務局から説明をお願いします。

(1) 徳島教育大綱(案)

(上野調査幹)

【資料1により事務局説明】

(飯泉知事)

それでは議事の2「意見交換」に移りたいと思います。意見交換につきましてはただ今事務局から説明がありました案についての意見を賜ればと思いますので、どうぞよろし

くお願いを申し上げたいと思います。それではいつも通り席順ということで、まずは菊池委員さんからお願いします。

(菊池委員)

事務局の方にはたいへんすばらしい大綱案をお示しいただき、ご苦労さまでした。2回の会議に参加させていただき、修正点であったり、新たに加える部分が多く発生したところですが、私自身、この場に参加させていただくことを光栄に感じています。当然ながら、大きな目標であったり、プランであったり、もうすでに実行されなければいけない時点に来ているのかなと思います。今後、これが実行を重ねられて、どういったところで検証して、それを示していただけるのか。そして、いろいろなプランがあって、それがなかなか達成できないような場合、再プランを立てなければいけないこともあるかもしれない。そういった部分に今後、どれだけ関わっていけるのか、質問させていただきたい。私には孫が2人いるが、こういった大綱に支えられながら、教育を受けることになるということ、たいへん心強く感じています。是非とも、県内の幅広い方々に、隔々にまで届くように、努力していただきたい。質問として、修正や経過報告など、どこかの時点でしていただけるのかをお聞きしたい。

(東條副教育長)

具体的な施策を実行して、それがどう検証されていくのかというご質問ですが、大綱は基本方針ということで、具体的な施策というよりは、施策を実行していくための理念が示されています。具体的な施策については、第3期の教育振興計画や県の総合計画などに、それぞれの施策を落とし込んでいます。その中で、毎年度の目標の達成状況などを確認、検証しながら、見直しをしていくこととなります。新たに追加された部分については、今後、補正予算や当初予算で施策の予算を組みながら、新たな計画のフォローアップの中で、施策として盛り込まれていくと考えています。

(飯泉知事)

いま菊池委員さんからご指摘が1ページの位置づけというところで大きく2点ありまして、この教育大綱というものがどういう位置づけなのか、つまり教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針を定めるということと、教育分野に関する総合計画の上位、県の行動計画の上にこれがあり、いわば大きな理念と方向性を示すと。では具体的に目標というものを、施策はどうしていくのか、大綱の施策として徳島県教育振興計画第3期により、具体的な施策や成果、目標を示すということになっておりますので、具体的にはこちらに落とされていると。実はこの大綱を作る最初の時に文部科学省の方からは、大綱を作れということになって、知事部局とも連携してと言われました。そこで少し教育委員会の中で混乱がありまして、各都道府県によってバラバラなんです。実は某四国の県ではこの教育振興計画のコピーが教育大綱になっております。徳島県はそれはやめようということで、ましてや行政のトップの計画の上位にこれを位置づけようということで、教育の部門計画ではなく大きな方向性、バイブルとして使っていこうと。そういうことですので、いま菊池委員さんからお話しがあったように

教育振興計画こういったところにしっかりと落とししていくと。おそらく教育委員会の中でそういった過程についても具体的な説明がなされていくものと思っておりますので、その時にご指摘を頂ければと思います。

(河口委員)

今回、新たな視点のもとで、教育大綱がとりまとめられたということで、たいへんご苦労さまでした。表紙、レイアウト、写真、QRコードなどいろいろな工夫がなされている中で、徳島への郷土愛や誇りがしっかりと取り上げられていて、子供たちの徳島への愛が変わっていくのではないかと、たいへんうれしく思います。特に、3ページのところに、「こころいき」や「たくましさ」、「おもしろい」という具体的な言葉が盛り込まれていて、教職員のみならず、県民にも身近に結びつくのではないかと思います。こういった意味で大きな成果だと思う。非常に良いものであるが、何点か感想として述べさせていただきます。

まず、目次の部分であるが、大綱策定の趣旨、位置付け、推進期間、重点項目とあります。例えば、重点項目Ⅰでは「未知への挑戦」とか「未来を創る教育の推進」とか、具体的に書かれているので、目次の部分に盛り込んではどうでしょうか。それを見たときに、関心を引き付けられると思います。余白もあるので、広く県民の視点から考えたときに、身近に感じてもらえるよう、そういった工夫が必要ではないでしょうか。

2ページの人財の具体像の部分についても、見せ方としてももう少し強調したほうがよいのではないのでしょうか。さらっと流れている感じがします。「未来を切り拓いていく人財」など、3点あるが、もう少し、強調した方がよいのではないのでしょうか。

さらに、それぞれの文章を見ていくと、一文が長いと思います。例えば、7ページの「豊かな育ちを支える、幼児教育の推進」の部分。幼児教育は非常に大切であると思うが、一文を二文にすると、読んだときにもっと心に残ると思います。折角、良い内容であっても、あまり長いと、読んでいるうちに薄れてきてしまう感じがします。できるだけ、短い文で簡潔に述べた方がよいのではないかと。読んだときに心に残るセンテンスが必要であるように思います。

4ページに環境教育の部分があります。最終的なレイアウトは調整されると思うが、この部分が非常に窮屈に感じます。水教育など非常に興味はあるが、しっかりと伝わるよう、レイアウトの調整をしていただきたい。また、たくさん写真も入っているが、教員が見ればわかるかもしれないが、県民が見ると何の写真かわからないものもあるのではないのでしょうか。例えば、5ページの「豪華客船で来県した外国人を高校生がサポート」とあると、こんな取組もしているんだと、県民の方もわかる。その横の、「小学生デイキャンプ」などは、誰が、どこで、何をしているのかがわかりにくいかと。県民の視点から考えて、写真の説明もできるだけ具体的に記載すれば、身近に感じていただけたらと思います。教職員はわかっているという視点ではなく、徳島県民全体に知らせていくためにも、そういうところが大切ではないでしょうか。

11ページの全国初の夜間中学校のところであるが、この部分の言葉が、「学び直しを必要とする者」とある。何か温かさが無いように思います。「者」とすると上から目線の感じがするので、「人」にする方が配慮があって、よいのではないのでしょうか。10ペー

ジの「全国いじめ問題子供サミット」は名称なのか。子供はこのまま漢字でいくのか。決まっているのであれば、そのままでいいのでしょうか。

非常に良いものが出来ているので、より県民のみなさまに共有していただけるようなものにしていただきたい。

(飯泉知事)

いま河口委員から、いくつかご指摘をいただきました。まず、それぞれの文章にキーワードといったものがない、だらだら書いているから心に残らない。そこがポイントになると。それからレイアウトは写真が入ったところはずまっていると、ワンパターンになっている。写真に付いている下のリードが名称になっているものと説明とが両方あるということ。それと6つ目に上から目線であること。これも全てなんですけれども、目次のところを超ダイジェスト版、大きくでは基本方針、重点項目で基本方針ですと一番目玉になるのがベストダイジェストであるとか、重点項目であればそれぞれのリードや柱を入れるとか、あるいはその位置づけや推進機関を書きいけると。つまり目次を見ただけで、ここを見れば分かると。そこからダイジェスト版があつて本編があるというような流れにしたらどうかと。つまりSDGsを2030年までに全世界でやる訳で今各県もやり始めたので、それぞれ17のアイコンのどれに当たるか。そうすると目次のところにSDGsについてと。例えば、フェアトレードであれば12番目のアイコン入れるとか、ダイバーシティであれば10番目を入れるとか、そこはカラーで入れていけばいいと、そういう形で工夫してみてください。大変貴重な意見をありがとうございました。それでは、小林委員お願いします。

(小林委員)

先日、3ページにある「困難に打ち克つたくましさ」の部分にある、関寛齋先生について、質問させていただいたところ、懇切丁寧な説明をいただきました。関寛齋先生は千葉県出身であるが、それを徳島県の教育大綱に入れることについては、どうですか、と質問がさせていただいた。徳島に長い間いらっしゃって、徳島の医療に尽力されたこと、また、今の城東高校のところに診療所があったこと、その後たいへんな苦労を覚悟で北海道に渡られたということで、関寛齋先生は徳島の偉人ですと。私も含めて、千葉県の関係者にも理解されたと思います。ありがとうございました。

この教育大綱はたいへんすばらしいと感じています。今、河口先生からいろいろご指摘もありましたので、ますます良くなると思っています。先日、ある学校の関係者と話をする機会があつて、教育大綱は学校の中でどのような位置付けになっているのですかと、お聞きしたところ、あまり普段は見かけないとのことでした。あくまでも大きな目安というか、指針であつて、教育振興計画では数値化されているので、そちらはわかりやすいが、大綱はあまり目にもすることもないし、職員にもあまり説明はしていないということを知りました。その人だけのことかもしれないが、折角、ご苦勞されて作ったものなので、学校に根付くように、職員にも普段見ていただけるようにする方法はないかなと感じる。これについては、是非、ご検討いただきたい。

前回、スポーツマンシップについて入れていただきました。その後、スポーツを取り巻

く環境についていろいろ考えてみました。今、日本は熱波がひどく、たいへん暑い。会議前の雑談の中で、これでオリンピックを開催して大丈夫だろうかという危惧があると。これは決してプレイヤーズファーストではない。上から開始時期が決まって、スポンサーの意向で決勝は午前中、アメリカのフットボールとバスケットボールが始まる空白期間、ここに持ってきてほしいので、8月になった。これでは、あまりにもプレイヤーがないがしろにされているのではないかと。それを言う人もあまりいません。オリンピック、がんばろうという雰囲気であるが、実際に熱中症で倒れる人が出てしまうと悲劇であります。スポーツマン、プレイヤーを守ることが、おろそかになってしまっています。徳島県だけの問題ではないが、この教育大綱の中に、「安全」という一言を入れられないでしょうか。その言葉がどこかにあれば、徳島県は安全のこともしっかり考えているということをアピールできます。これから先、野球やインターハイなど、真夏に行うスポーツに関して、しっかりと考えられる徳島県のスポーツ界でなければいけないと思います。

(飯泉知事)

いま小林委員さんから重要な点2点ご意見がありました。教育委員会の方から何かありますか。

(儀宝教育次長)

この教育大綱を職員にどのように浸透させていくかということだが、教職員の校内研修会や職員会議等、そういった機会を捉えて、教育大綱の理念をしっかりと浸透させていきたい。

(飯泉知事)

最初のご指摘である教育現場であまり見られていないと。前回最初にこれを作った時に当時の教育長がありとあらゆる所であるいは研修の場といった所で徹底的に使っていくことを掲げられました。そうしたことを言ったら、研修はもとよりのことでありながら、もう一つは県庁の方でやっておりますが、例えばコンプライアンス月間であればコンプライアンスが出てくるわけです。それと同じで教育現場ではコンプライアンスよりは教育なので河口委員が先程言われたように目次だけでもいいわけです。目次の方が出るとか、あるいはその中でも特にその月、教育委員会として強調したい部分があるのであれば、そこだけが出てくるとかね。それで本編を見なさい、参考として教育振興計画を見なさい、といったようにして、常にそのようにすればいいわゆるないがしろにされることはまずないと。少なくとも1年間はしっかりやった方がいいと。その時は具体的な話まで一生懸命やると言われてたので、それでいいとしたのですがね。

それからもう1つプレイヤーズファースト。これは非常に重要なことで、今体育館で夏場にプレイをするとしんどい思いをします。これからは野球場もドーム球場でないとおそらく無理になってくると。もうインディゴソックスも7回で夏場はやめると。なのでどこかに小林委員が言われるようにプレイヤーズファーストを入れて、教育大綱が対象となるプレイヤーはどちらかという学生さんといったものも多いわけだから、子供達の安全安心といった中にプレイヤーズファーストといった面から考えるというのは、お父さん達の

安全安心に繋がる話なのでね。それで競技環境というものも含めてそれは入れていった方がいいと。プレイヤーズファーストをキーワードとしてね、安全安心のために。やはり保護者の皆さん方はこんな炎天下で子供達はやって大丈夫と心配するので、それを安全でしかも安心をしてもらうというのはプレイヤーズファーストということで説明をすれば、今の小林委員さんのご指摘にもお答えできると思います。

それでは藤本委員、お願いします。

(藤本委員)

前回の意見をたくさん取り入れていただいて、感謝しております。徳島教育大綱が第2期であるということを表紙に入れられてはどうかと思います。表紙のすだちくんの説明もどこかに必要ではないかと。今回の大綱の推進期間は書かれています、前大綱の推進期間もどこかに入れたほうがよいのではないのでしょうか。また、推進期間は西暦でも記載した方がよいのではないかと。表紙もできれば西暦があったほうがよいのではないかと思います。3ページの「徳島ならでは」の教育についての説明であるが、それぞれの説明の文末が過去形になっています。現在にもつながっているという意味で、現在形で記載してはどうでしょうか。その中に、人だけではなく、若杉山遺跡の水銀朱の原料ともなった辰砂の採掘のような史跡、勝浦町のボンベッドなども書き込めば、さらに魅力が高まるのではないのでしょうか。動画をたくさん入れていただいているが、例えば、7ページの主権者教育など、高校生が模擬投票をしているところなども、動画で発信できればよいのではないのでしょうか。また、10ページの徳島商業高校とドイツのニーダーザクセン州との交流なども、日本語の字幕が入ったような動画にしていくことが、これからは大切ではないかと思えます。防災教育についても、動画での発信があればよいのではないかと思えます。14ページの「生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくり」で、2019年から3年連続で開催される国際スポーツの部分ができれば正式名称でお願いしたいと思えます。また、パラリンピックもあるので、障がい者スポーツの視点も必要ではないか。参考資料で用語解説をたいへん詳しく書いていただいているが、本文と照らし合わせてすぐわかるように、※印で番号を付けるなどの工夫があれば、もっと見やすくなるのではないかと。SDGsについてですが、2030年までの目標ということで、4番目の質の高い教育については日本は達成できているようですが、ジェンダーや気候変動など、5つの項目については特に達成度が低いようです。徳島から日本、そして、世界をリードしていくということで、SDGsで言えば、どの項目にあたるのかがわかるような工夫も必要ではないのでしょうか。また、携帯電話の進化が非常に早く、今はスマートフォン。今や、スマートフォンで世界とつながる時代なので、そういったところもどこかに追加できないのでしょうか。8ページに「かけがえのない命を尊重し」という部分があります。ここに性教育に関する記載を追加できないのでしょうか。家庭教育が担う部分も大きいですが、学校教育でもしっかりとお願いしたいと思えます。

(飯泉知事)

それぞれ有意義なご指摘となっておりますので、教育委員会の方でも咀嚼をしていったらと思えます。ただ1点、年号をどうするか。西暦等の表記ということで中身としてそれ

を入れていくのはいいのですが、表紙にも入れるというのはあまり形として良くないので、このところは元号でさせて頂きたいと。中身についてはおっしゃるように過去との対比をする時に西暦があると引き算足し算がやりやすいというのはお話しのとおりです。これは表記の記名だけの問題ですから両方の表記をして、いま頂いた点については少し中身を検討してみてください。それでは辻委員、お願いします。

(辻委員)

非常によくまとまっていると思います。河口委員もおっしゃっていたが、いくつか説明不足のところがあると感じていました。動画についても、もう少し、説明文を工夫し、わかりやすくしていただきたいと思いますし、説明の文章を詳しくしたほうがよいと思います。この大綱に盛り込むべきものかどうかはわからないが、人口減少はこのままだとさらに進行していくことになります。学校をどのように核としていくかなど、町づくりや医療の問題等も含めて、総合的な検討がどこかで必要になってくるのではないのでしょうか。スポーツの安全についても、高校野球の大船渡高校の監督の決断はすばらしいと思う。あの評価は今後、出ることはないと思いますが、ああいう決断をしたということがすばらしいことであると思います、今までやった人はいないわけですから。誰かがそこで決断したことが未来につながっていくと。そういく決断ができる徳島県であってほしいと思います。徳島の文化についても、是非継承していかなければいけない。阿波藍、人形浄瑠璃もそうであるんですが、やはり小さい頃から体験させることがいちばん大切であると思います。それを踏まえて、方針等を検討していただきたい。

(飯泉知事)

いま辻委員から言われた点についても重要なことですし、特に構成の問題として例えば県の総合計画の場合には必ずその時代の背景というものが書いてあって、それから時代の潮流があって、そこから導き出されるからこれなんだと。そして委員がおっしゃられているようにそうしたところを考えて、一番の大綱策定の趣旨といったところに時代背景、確かに人口減少や災害列島という国難の話があるわけなので、人口減少から触れられているわけですので、そうした点については時代背景をしっかりと記すということについて重要ではないかと。いまの点も含めて分かりやすく、あまりだらだら長く書くというのは悪いので、そこを工夫してもらえればと思います。

それでは今の委員さん達の話も含めて、美馬教育長さんからお願いします。

(美馬教育長)

教育大綱に対する思いをいただき、委員のみなさまには感謝申し上げます。お一人お一人のご意見に対する形で申し上げるところではありますが、知事にもお知恵をいただいたところであるので、それも含めて、話をさせていただきます。

河口委員ご指摘の文章に関しては、我々も検討していく中で、長いのではないかという話も出たところではありますが、一段落は一文でという形としていました。わかりやすさ、

キーワードをしっかりと入れるというのは大事であるので、読みやすく、印象に残るものに、変えられる部分はしっかりと変えていきたいと思います。写真の説明については、おっしゃるとおりです。例えば、「プログラミング教育」と書いてもよくわからない。何をしている写真なのかがわかるように、改めていきたいと思います。

小林委員ご指摘の、学校に根付くようにということについては、前教育長が我々に残していただいたものとして、広報主幹があります。広報主幹がほぼすべての学校を回って、教職員一人一人にしっかりと説明をしていくということを行っていました。今回についても、前回と同様に広報主幹がそれぞれの学校で説明を行う形をとっていきたいと思います。しかしながら、3年、4年とたってくると、だんだん薄れてくる。その間に新しく入ってくる人もいますので、もちろん、初任者研修をはじめ、年次研修で大綱については触れているが、広報の熱意という意味ではだんだん薄れてきているという反省もあります。先ほど、知事からもあったが、1週間に一度は目にするような形、小中学校でも令和3年度から統合型の校務支援システムも導入されるので、そういうものをしっかりと活用しながら、日常生活で触れる機会をつくっていきけるよう努めて参りたいと思います。また、安全・安心、プレイヤーズファーストということについてもしっかりと盛り込みたいと思います。

藤本委員ご指摘の障がい者スポーツについては、9ページに少し触れているところはあるが、優れたアスリートという意味でも、改めてスポーツのところに追加できるよう検討していく。教育の日のマークの説明については、作ったものの、教員ですらあまり知らない状況もあります。どこかに入れる工夫をしていきたいと思います。SDGsや性教育についても、改めて検討いたします。動画についても、わかりやすく説明を入れるよう改善しまして、動画を撮っていないものもあるが、良いものができるだけ掲載できるようにしていきます。

辻委員ご指摘の時代の潮流については、大綱の趣旨のところにも書いてはいるのですが、その背景がしっかり表現できているか、もう一度精査し、入れられるものはしっかりと入れていきたいと思います。

いろいろお知恵をいただいたので、一層良いものとなるよう、努めて参りたいと思っております。ありがとうございました。

(飯泉知事)

いま美馬教育長さんから総括をして頂きましたので、そうした方向でこの文章の修正というものをして頂ければと思います。それでは委員の皆様方にお諮りをさせて頂きたいのですが、今日賜りましたご意見についてきっちりと修正をさせて頂きまして、その後に徳島教育大綱として決定させて頂いてよろしゅうございましょうか。

(全委員 「意義なし」との声あり)

ありがとうございます。ではそのように図らせて頂きます。

それでは私の方から最後に1点感謝を申し上げたいと思います。昨年の11月から今日を含めて4回徳島教育大綱のご審議を頂いてきたところであります。様々な観点から現場あるいはそれぞれの分野から、また時代の潮流をという形で様々なご意見を頂きまして、

ここまで取りまとめをすることができました。心から感謝を申し上げたいと思います。あとは各委員さん方からのお話しがありましたように、これをどう実行出来るか。教育現場であるいは実行ということであれば、我々知事部局と教育委員会がしっかりとスクラムを組んでやっていく。これも大変重要な点となりますので、そうした点も含めまして、本当に県をあげてこの教育大綱といったものが実行あるものにできるよう、しっかりと取り組みを進めて参りたいと存じます。

長い間でありましたが、本当にありがとうございました。

(志田部長)

それではこれもちまして、総合教育会議を終了いたします。

活発な御議論、どうもありがとうございました。

以上